



2024～2025 年度
大船渡西ロータリークラブ会報
七福人

会長 山口 徹
副会長 今野 義也
幹事 谷地 保



=会長指針=
笑顔でロータリー

・・・ 例会記録 ・・・

11月第2回例会 2024年11月14日(木)

ソング：我等の生業 ボックス：18,000円 (報告者 磐井公洋会員)
お客様紹介：大船渡市こども家庭センター所長 伊勢徳雄様
本日出席率：54.55% 前回修正後 100% (マーカップ 18名) (報告者 船底俊昭会員)



濱守パストガバナーへ ポリオプラス・ソサイエティ登録証交付

濱守 PG：ポリオの早い撲滅を願い協力を申し出ました。

★ 会長の時間：山口 徹 会長



みなさんこんにちは。まずは大船渡市こども家庭センターの伊勢所長、お忙しい中、当クラブの例会にお越しくださりありがとうございます。後ほどお話をよろしくお願いします。

濱守パストガバナーには率先してポリオプラス・ソサイエティ（毎年ポリオプラスに100ドル寄付をする）に申し込みいただき有難うございます。私も先月ポリオプラスに100ドル寄付させていただきました。みなさんにも是非財団も含めて寄付の意識を持っていただけると有難いです。

さて私の今年度の重点目標の1番は「親睦を深めましょう」としました。その一環として10月24日に3クラブ親睦ゴルフコンペを江刺カントリークラブで行いました。詳細は後ほど三田地親睦小委員長から報告してもらいます。藤原会員、三田地会員、色々と段取りありがとうございました。

そして11月5日に第1回グルメクラブを遠野の日本料理旬彩和田にて開催しました。

まずはお詫びします。何の前触れもなくいきなりグルメクラブの案内をさしあげてしまい戸惑った会員もいたようです。私の思いは、当クラブの同好会的な活動はゴルフと野球だけですが、もっと他にもみんなが参加できるものはないかと考えたときに「食」もありかなと思いました。幸い我がクラブには金会員という素晴らしいアドバイザーがいます。この方を生かさない手はないと思った次第です。当日は10名の参加で、9人は三田地会員の運転するハイエースに乗り現地に向かいました。料理の写真は一部会報七福神に載りましたのでご覧ください。私は食レポできませんが、とても手の込んだ上品な料理だと思いました。最後に出たご飯の上に載った2切れのウナギがとてもおいしかったです。感想は人それぞれですので料理、お店の雰囲気は参加された方に聞いてみてください。金アドバイザーありがとうございました。次回はどんな所に連れて行っていただけるか大変楽しみにしております。



幹事報告



1 ガバナーエレクト事務所より

2025-26年度会員ハンドブック希望部数のお尋ねが届いています。

締切 1月15日

2 全国ロータリークラブ甲子園野球大会東北地区連盟

事務局長 久米様から 当地区での野球大会開催への御礼状が届いています。



委員会報告



★ 三田地親睦小委員長



10月24日大船渡RC・陸前高田RC・当クラブの三クラブ親睦ゴルフコンペを開催しました。

結果

個 人 優 勝	大船渡RCの 今野幸徳会員
団 体 優 勝	大船渡西RC
当クラブ内優勝	金比呂正会員



本日のプログラム



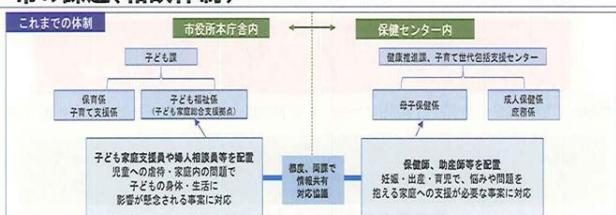
職業奉仕アワー



大船渡市こども家庭センター所長伊勢徳雄様講話

配られた資料に基づき、少子化の現状やセンター発足の経過・現在の利用状況等をお話し頂きました。

市の課題(相談体制)



課題①：相談件数増加への対応

大船渡市要保護児童対策地域協議会（市、児童相談所、警察、学校、医師会等で構成）で対応している要支援・要保護児童数の推移
(単位：人)

R1	R2	R3	R4	R5
59	84	90	116	111

【状況】

- 子育て世帯における悩み・問題への相談対応に当たっては、両課が同時に関わるケースが多く、その都度、状況把握と支援方針を双方で協議・確認する必要があり、相談件数の増大により業務量が増している。
- 相談対応に当たっては、専門性を有する相談のため、両課から聞き取りを行う場合があり、相談者側と行政側双方の視点から見て、煩雑かつ非効率な体制となっている。

【解決方針】

この方針である「こども家庭センター」設置による児童福祉と母子保健の相談体制の一元化は、現有人員で相談体制を維持しつつ、相談者への適切な助言・支援・関与を行う必要がある當市においても必須と考え、この方針と市の課題解決方針とが合致した形で組織の再編を行ふ。

市の課題(子育て環境の充実)

課題②：社会全体で応援する機運醸成へ向けた取組展開の必要性

多くの子育て世帯が、仕事を両立しながら育児に励む中で、心理的・身体的な孤独感や負担感など、様々な不安や悩みを抱えていることから、家族や親だけが子育てを担うのではなく、日常の市民生活及び経済活動における様々な世代・立場の方々の理解と協力により、社会全体で子ども・子育て世帯を支え、応援していく環境づくりが重要である。

また、国の提唱する「こどもまんなか社会」の実現や、こども基本法の基本理念である「こども本人からの意見を伺う」に連動し、**子ども本人からの意見を伺う体制づくり、気軽に応じることができる相談体制も必要**である。

課題③：子どもの遊び場整備の必要性

令和4年度市民意識調査
「子どもの遊び場が確保されている」

①そう思う	53人
②どちらかといえばそう思う	168人
③どちらかといえばそう思わない	224人
④そう思わない	359人

⇒①②の合計は全体の約27%
(わからない&無回答を除く)

子どもの遊び場は、不足している実態がある。また、様々な研修会や交流の場において、**保護者から「天候に襲わらず子どもを遊ばせることのできる場所」の設置を求める声が寄せられている。**

こども家庭センターの紹介

子ども子育て施策で今後重視したいこと

①子ども子育て環境の充実

◇**仕事と家庭を両立できるよう負担軽減を図る**

△生み育てやすい環境を作りつつ、そのコミュニティ・憩い・遊びの中心をまちなかに増やす。

△市民には、まちに暖かいと明るい雰囲気を醸し出し、まち全体で子どもや子育て世帯に心を持ってもらうことで、子育て支援の理解を得る。

△子育て支援の充実により、

子育て世帯には、できるだけ「たいへんだけど生んで良かった」と

思ってもらうことで、出生数の持ち直し、合計特殊出生率の改善を期待する。

③子どもの権利を守る

△子どもの幸せを第一に考え、子どもの利益が最大限に尊重され、心身ともに健

やかに成長できるよう、妊娠、出産、育児に至る様々な家庭の悩みに応じてきめ

細かく支援する。

大船渡市

こども
みんなか

令和6年度 大船渡市こども家庭センター開設へ

こども家庭センターの紹介

大船渡市の少子化対策は、「若者の社会減に歯止めを掛けること」が重要

住みにくから出ていく、やりたい仕事がないから出ていく、別のまちに魅力があるから出でていくetc.を食い止め

これから世代が暮らしやすいまち・魅力を感じるまちになるよう
市民みんなで取り組んでいくことが大切

若者視点での住みやすいまちづくりへ

働き甲斐
収入
自己肯定

男女協働
多様性
慣習見直し

まちの誇り
雰囲気
挑戦

出産
子育て
教育

遊び・憩い
コミュニティ

産業
振興

デジタル

人材
育成

子育て
支援

市民
協働

教育

文化・
スポーツ

etc.27

経緯

渕上清大船渡市長（令和4年12月就任）

「こどもはみんなの宝物」

更に子ども・子育て施策を充実していきたい



國の方針

+
市の相談
体制を
強化したい

+
社会全体で
子育て応援

+
子どもの
遊び場を
整備したい

まちなかの商業施設内（サン・リアショッピングセンター）に
「大船渡市こども家庭センター（愛称はD A C C O ）」を開設

28

令和6年7月開設

中心市街地（まちなか）の商業施設内（サン・リアショッピングセンター）に
複合施設「大船渡市こども家庭センター（愛称はD A C C O ）」を開設



行政機能

「子ども子育てに関する行政機能」を市役所や分庁舎から、まとめて商業施設に移転します。

⇒全ての子ども、妊産婦、子育て世帯の様々な悩みに対応できる一体的相談支援体制を強化します。

=こども本人や保護者の視点で分かりやすい手続・相談体制をつくります。

子どもを遊ばせたり、子どものことで何か心配事があったら、「こども家庭センターに行こう」という流れを作る



交流機能（交流広場）

小さな子どもが天候にかかわらず遊べる屋内の遊び場（屋内公園）と、子育て世帯が交流できるスペース（交流ゾーン）を整備します。

⇒子育て世帯からニーズの高い「屋内での子どもの遊び場」を整備し、子育てに楽しさと想いを生まれさせます。

子どもが元気に、ババママも笑顔に
こうした空間を創出し、子育て環境の充実につなげるとともに、まちなかに明るい雰囲気と新たな賑わいを生み出したい。

みんなで ながよく ゆずりあって たのしく



- ◆「屋内公園」というイメージの広場です。無料で利用できます。
- ◆主に小さなお子様や保護者向けですが、外の公園と同じように、誰でも入場できます。
- ◆小学生以下の入場は、必ず保護者同伴とします。お子様の安全管理をお願いします。



涼み処

31

施設利用者は、今月初め2万人を超えた。

涼み処

32



3 むすびに

大船渡市の少子化対策は、「若者の社会減に歯止めを掛けること」が重要

住みにいくから出していく、やりたい仕事がないから出していく、別のまちに魅力があるから出していくetc.を食い止め

これから世代が暮らしやすいまち・魅力に感じるまちになるよう
市民みんなで取り組んでいくことが大切

若者視点での住みやすいまちづくりへ

働き甲斐
収入
自己肯定

男女協働
多様性
慣習見直し

まちの誇り
雰囲気
挑戦

出産
子育て
教育

遊び・憩い
コミュニティ



子どもを産み育てやすい環境には、
市役所・こども園等の子育て支援機関のみならず、企業やお店、様々な世代etc.全ての方々の子育て世帯への共感・気遣い・応援・協働が一步一歩深まることにより、やさしい社会が生まれ、子育てしやすいまちにつながると信じています。



etc.³⁶